

## 展覧会

### 開館 10 周年 ちくご ist 河北秀也 デザインの旅

このたび、久留米市美術館では、筑後地方にゆかりのあるアーティストを紹介する「ちくご ist」シリーズの第3回として、久留米出身のアートディレクター・河北秀也（1947- ）の追求するデザイン思考にせまる展覧会を開催します。

河北は、デザインはあくまで額縁であり、主役は商品そのものであるという信念のもと、つかう人の気持ちを一番に考えたデザインを常に心がけています。

本展では、少年時代を過ごした久留米・筑後での思い出を出発点として、初期の代表作である地下鉄路線図・地下鉄マナーポスターや、1984年から現在まで40年以上つづくB倍サイズの駅ばりポスター、ボトルデザイン、CM、雑誌広告などのすべてをディレクションするiichiko designの魅力が多角的に掘り下げることから、河北秀也が歩み続ける「デザインの旅」を巡る機会とします。

|              |                                                                                                                                                                                                              |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展覧会名         | 開館 10 周年 ちくご ist 河北秀也 デザインの旅                                                                                                                                                                                 |
| 会期           | 2026 年 8 月 8 日（土）～10 月 12 日（月・祝）（58 日間）                                                                                                                                                                      |
| 出品点数         | 約 120 点                                                                                                                                                                                                      |
| 会場           | 久留米市美術館 2 階                                                                                                                                                                                                  |
| 主催           | 久留米市美術館、西日本新聞社、テレビ西日本                                                                                                                                                                                        |
| 特別協力         | 三和酒類株式会社、株式会社日本ベリエールアートセンター                                                                                                                                                                                  |
| 後援           | 久留米市教育委員会                                                                                                                                                                                                    |
| 企画協力         | 株式会社 TNC プロジェクト                                                                                                                                                                                              |
| スペシャルパートナー   | 株式会社ブリヂストン                                                                                                                                                                                                   |
| オフィシャルパートナー  | 学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店、喜多村石油株式会社、株式会社ユー・エス・イー、株式会社栄電舎                                                                                                                                                   |
| 入館料          | 一般 800 円(600 円)、シニア 500 円(300 円)、大学生 400 円(200 円)、高校生以下無料<br>障害者手帳等の交付を受けている方とその介護者 1 名は無料となります。<br>（ ）内は 15 名以上の団体料金、シニアは 65 歳以上。<br>前売券（500 円）はチケットぴあ、ローソン各店にて会期 1 ヶ月前より販売。<br>（P コード 687-423 L コード 86715） |
| 休館日          | 月曜日（9 月 21 日、10 月 12 日は開館）                                                                                                                                                                                   |
| 開館時間         | 10:00-17:00（入館は 16:30 まで）                                                                                                                                                                                    |
| 交通案内         | JR 博多駅より JR 久留米駅まで新幹線で 20 分、快速で 40 分<br>福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で 30 分、急行で 40 分                                                                                                                                   |
| 本展に関するお問い合わせ | 久留米市美術館 展覧会担当：井須圭太郎、森智志<br>〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015（石橋文化センター内）<br>TEL 0942-39-1131 / FAX 0942-39-3134                                                                                                       |

※開催情報に変更がありました場合には、随時、当館ホームページ、SNS 等によりお知らせいたします。



### 河北 秀也 (かわきた ひでや)

1947 年、福岡県久留米市生まれ。アートディレクター。東京藝術大学名誉教授。

1971 年、東京藝術大学卒業。

1992 年より東北芸術工科大学教授を務めた後、2003 年より東京藝術大学デザイン科教授に就任、2015 年退任。

東京藝大 2 年の時にサクマ製菓のキャンディ「いちごみるく」のデザインを手がける。1972 年、営団地下鉄（現：東京メトロ）の路線図のデザインを制作。

1974 年、日本ベリエールアートセンターを設立。70 年代から 80 年代にかけて営団地下鉄のマナーポスターをシリーズで手がける。

1983 年より三和酒類焼酎「いいちこ」の商品企画、ポスターなどのアートディレクションを手がけ、固有のデザイン世界を創造してきた。

1986 年より「季刊 iichiko」を監修。「いいちこ」の CM テーマソングにビリー・バンバン の楽曲を使用、2009 年には新商品「日田全麹」CM ソングに『また君に恋してる』を坂本冬美にカバーさせ大ヒット。

2000 年にグッドデザイン賞、01 年に日本パッケージデザイン大賞の大賞、01 年、04 年、12 年にナショナルジオグラフィック日本版広告賞（アートディレクター、写真家として）などを受賞。

著書に『河北秀也のデザイン原論』（新曜社、1989）、『風景の中の思想—いいちこポスター物語』（1995）、『風景からの手紙—いいちこポスター物語 2』（1996）、『透明な滲み—いいちこポスター物語 3』（1997、以上ビジネス社）、『元祖！日本のマナーポスター』（グラフィック社、2008）、『デザインの場所』（東京藝術大学出版会、2014）、『場所のこころとことば デザイン資本の精神』（文化科学高等研究院出版局、2021）など。

## 河北秀也氏からのメッセージ

### 久留米の美術館と私 河北秀也

まさか、久留米市美術館から私のデザイナー人生が始まったとは思ってもいなかった。私は久留米市通町五丁目で昭和 22（1947）年生まれ。兄姉兄私の 4 人きょうだいの末っ子で、2 人の兄と姉は、うきは市山北で生まれている。父は私が 5 歳の時亡くなっているもので、わずかし記憶はない。そばにはいつも年老いた母がいた。姉とは 20 歳年の差があり、子供と間違われるので一緒に歩くのを嫌がった。

福岡学芸大学（現教育大学）附属久留米小中学校へ日吉町から西鉄バスに乗って 9 年間通った。卒業すると、男子は男子校の附設高校へ、女子は共学の明善高校へ入る人が多かった。私も何も考えずに附設高校へ入学した。

中学の卒業式が終わると高校の入学式まで暇だった。石橋文化センターの石橋美術館（現久留米市美術館）で記念スタンプを募集しているとのこと、応募でもしてみるかと、気楽に出してみた。次点（佳作）だった。表彰式に呼ばれ、子供だったので審査員に大変驚かれた。副賞に同伴者も OK という石橋文化センターの 1 年間無料入場券を貰った。市内にはここにしか 50m プールがなかった。高校は家からの途中だったので、友達とこの券でたびたび入場した。しかし「誰から借りてきたのか！」といつも入口で怒られた。

附設高校 1 年の時、2 年から文系、理系のどちらの大学を受けるかでクラスを分けるのでと進路相談が行われた。私は将来のことは何も考えていない。どの大学へ行きたいかより、何になりたいかが先だと思った。医者や弁護士、学校の先生などにはなりたくなかった。

コミュニケーションのデザイナーかジャーナリスト、レーサーなどはなりたい職業だった。もちろんそんな職業が一般に言われていたわけではない。図案家、新聞記者、レーシングドライバーなどと言われていたような気がする。3 つとも現実をしっかり見て、デザイナーはデザインをする。記者は記事にする。なんかレーサーだけは違う気がするが、レーサーは路面の状況を正確に見て超高速で走る。なんと同じなのだ。

いろいろ調べて東京藝術大学を受けると先生に言ったら、附設では無理だ。あそこは学科はやさしいが実技が難しい。転校しなさいと言われた。ところが福岡県では私立から公立へは転校できないという規則があるらしい。

姉が結婚して大分県宇佐市に住んでいた。母が病んで姉のもとにいたこともあり、美術クラブがあった大分県立宇佐高校に 2 年から転入できた。宇佐高校 2 年の夏、久留米の石橋美術館で夏休み期間にデッサンの講習会があるという記事が出ていた。

えー。また久留米へ行くのかー。でも行きたい。その頃、宇佐から久留米は遠く感じた。しかも久留米市通町の家はもうない。母の実家がうきは市吉井町にあった。吉井町から久留米まで約 1 週間、美術館へ通った。デッサンの講習会は裸婦デッサンだった。モデルの女性が目の前に全裸でずっと立っていた。久留米の美術館とは、なんか不思議な場所である。

## 展覧会のみどころ

### プロローグ ちくご ist デザイナー河北秀也の原点

河北は中学3年生の春休みに、石橋文化センターで募集していた記念スタンプ図案に応募し、佳作入選となりました。またデザイナーを目指して大分県の宇佐に転校した高校2年生の夏休みには、石橋美術館で開催された夏季洋画講習会に参加しています。河北にとって久留米市美術館のある場所は、デザイナーとしての原点の地であったといえます。



石橋文化センターのスタンプ募集の図案をみる審査員(石橋美術館にて)

出典:朝日新聞 1963年3月17日掲載記事  
 ※右から谷口鉄雄(九州大教授)、豊田勝秋(佐賀大教授)、ほか岸田勉(佐賀大助教授)、藤田英一(石橋文化センター常務理事)が審査にあたる



河北が参加した第4回夏季洋画講習会(1964年8月26日~29日)会場風景

出典:石橋美術館 館報 No.9(1965年)  
 ※石本秀雄(佐賀大教授)、内野秀美、川原貫一、鶴南が講師をつとめた



1. サクマ製菓 いちごみかんパッケージ 1968年

大学生のときにアルバイトでパッケージデザインを手がけた。その際に「きみは額縁屋だね」と言われて以来、デザインはあくまで額縁で、主役は商品そのものであるという信念のもと、デザインに取り組んでいる

### STORY 1 駅からはじまる — つかう人のためのデザイン

河北は、つかう人の気持ちを一番に考えたデザインを常に心がけています。地下鉄路線図は、地方から上京してきた高齢者の方にもわかりやすい路線図が必要との思いから考案されました。

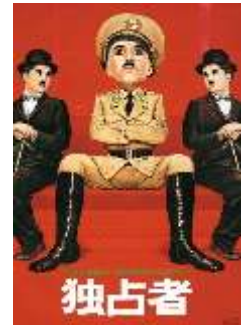
また初期の代表作である地下鉄マナーポスターのシリーズは、駅という大勢の人が目にする場所に掲げられた公共広告として、映画スターをモチーフにするなど、大きな話題となりました。



2. 旧営団地下鉄 地下鉄路線図 1972年



3. 旧営団地下鉄マナーポスター 帰らざる傘 B1判 1976年6月



4. 旧営団地下鉄マナーポスター 独占者 B1判 1976年7月

### STORY 2 ボトルのある風景 — iichiko design のはじまり 1984-1989



5. いちこ駅ばりポスター No.A-1 B0判 1984年4月

河北は1983年から、姉夫妻の勤める三和酒類からの依頼により、麦焼酎いichikoの広告を手がけます。1984年から始まったB0判の駅ばりポスターは、毎月1枚のペースで掲出され、現在までに500点以上が制作されています。印刷では、イメージに合うように紙やインクの種類を毎回変えるなど、徹底的にこだわり抜いています。STORY2では、iichiko designのはじまりとして、1980年代に制作された初期のポスターをご覧ください。

### STORY 3 ボトルと旅する — あの日の記憶 1990-1999



6. いいちこ駅ぱりポスター No. A-159  
B0判 1996年8月

いいちこの駅ぱりポスターは、美しい日本の原風景をテーマとしています。しかし、国内では電柱や看板などが目立ってしまうという理由から、そのほとんどは海外で撮影されています。心地よい風景の中に佇むいいちこのボトルは、河北秀也とともに世界中を旅してきました。STORY3では、1990年代に世界のさまざまな場所で撮影されたポスターを展示します。

### STORY 4 楽しみの時間を想う — iichiko design のめざすもの



7. いいちこフラスコボトル  
1998年10月



8. いいちこ SUPER  
雑誌広告 2025年8月

河北は iichiko design において、麦焼酎そのものの素材の味わいや、酒を酌み交わす相手との時間や空間を大切にデザインしています。表裏のない工芸品のよう美しいボトルや、食材でボトルをかたどった雑誌広告など、楽しみの時間に想いを馳せる工夫が随所に凝らされたデザインをご覧ください。

### STORY 5 楽しみはここにある — iichiko CM gallery 1986-2026

1986年から現在まで毎年制作されているいいちこのCM。1987年からはビリー・バンバンによる音楽が使われており、ナレーションは河北自身が担当しています。音楽と映像、そしてナレーションが心地よいハーモニーを生み出す iichiko CM を関連するポスターとともに楽しんでください。

### STORY 6 River and Plain — いつかどこかで見た風景

いいちこの駅ぱりポスターには、清らかな水が流れる河川や、美しい野花の咲きほこる平野が撮影されたものがあります。撮影地はすべて海外ですが、河川や平野は、筑後川や筑後平野が身近にある私たちや、久留米で生まれ育った河北にとっても親しみの深い光景といえます。いつかどこかで見たような、懐かしくも美しい原風景に想いを馳せてご覧ください。

### STORY 7 自然とともに生きていく — この地球のなかで



9. いいちこ駅ぱりポスター No. A-216  
B0判 2000年12月



10. いいちこ駅ぱりポスター No. A-379  
B0判 2013年8月

これまで世界の30ヶ国以上でロケーションが行われているいいちこ駅ぱりポスター。なかでも印象的なのは、自然が生み出す一瞬の表情や、スケール感のある風景を捉えたポスターではないでしょうか。STORY7では、私たちの生きる地球での自然の力を感じさせる作品を展示します。

## STORY 8 この道の先、あの空の向こうー 明日も旅は続いていく

河北は「いいちこは、わたしの人生です」\*といます。デザイナーを志した10代の頃から現在まで60年を越える活動のうち、実に40年以上にわたり一貫したコンセプトで流行に左右されないブランドイメージを積み重ねてきたiichiko design。その道のりは、河北の歩んできたデザインの旅路そのものといえるかも知れません。STORY8では、これまでの歩みと、明日も続いていく旅の行方を想起させる駅ばりポスターをご覧ください。\*『iichiko Design Week 2024』冊子(2024)「わたしといいちこ」より

## エピローグ 河北秀也のいま

いいちこの駅ばりポスターは、毎月20日から月末まで、全国500ヶ所以上の駅で掲出されています。エピローグでは、河北秀也のいまを感じることができる最新の駅ばりポスターを会場に展示します。

## 関連事業

### ●講演会「ちくごist 河北秀也 デザインの旅」

講師：河北秀也 氏（アートディレクター／東京藝術大学名誉教授）

日時：8月29日（土）14:00－15:30

会場：石橋文化会館 小ホール 定員：120名（当日受付順・参加無料）

### ●ギャラリートーク

担当学芸員 日時：8月9日（日）、9月20日（日） 14:00－15:00

当館学芸員 日時：9月6日（日）、10月4日（日） 14:00－14:30

集合場所：美術館2階 エントランス \*要観覧券チケット

### ●ワークショップ「iichiko 瓶で手作りハーバリウム」

河北秀也ボトルデザインによるiichikoの空き瓶をつかってハーバリウムを作ります。

日時：9月19日（土）①10:30-12:00 ②14:00-15:30

講師：水落郁子 氏（カフェとお花屋さん IRISE イリゼ）

会場：美術館1階 多目的ルーム

対象：小学生以上

定員：各回6名

参加費：一人4,000円（観覧券チケット含む）

〔申込方法〕参加者全員の氏名（2名まで可）、代表の方の郵便番号・住所・電話番号をご記入の上、ハガキ、FAXでお申し込みください。

申込締切：8月20日（木）※応募者多数の場合は抽選。結果は8月28日（金）頃までにお知らせします。



## 作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. web ページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず2部お送りください。